

【コメント】

岩鼻 通明

本報告は、韓国の首都ソウルの、朝鮮戦争からの復興、朴大統領時代の日韓条約にともなう経済協力とベトナム戦争特需に支えられた産業化、そして、1988年の五輪による江南地区の発展といった、ソウルの近代的発展を整理し、さらに、歴史的都市を基礎とする江北地区と、ポストモダンな景観のみられる江南地区の対照性を指摘している。

近年においては、ソウルは、1997年末からのIMF経済危機をIT革命によって克服した。早い時期に整備された江南地区の九老工業団地も、2002年からIT工業団地へ生まれ変わるとのことである。

また、最近の新都市建設には、環境生態的関心が強く盛り込まれ、2002年ワールドカップ会場となったスタジアム周辺は、まさにエコタウンとして、かつてのゴミ処分場が再生されたものである。

一方で、商業中心は、南大門・東大門市場に依然として存在するが、郊外への大型店舗の進出も急速にみられ、明洞のロッテ・デパート付近の大規模な再開発も計画されており、旧都心地区の活性化が期待される。

ところで、ソウルのみならず、韓国の主要都市には、周囲にグリーンベルトが設定されているが、郊外化にともなう住宅不足のため、このグリーンベルトの開発規制緩和が進められている。とりわけ、南北の軍事的緊張の緩和によって、ソウルの北方への発展の可能性が具現化しつつある。

それに対して、旧都心周辺地区においては、伝統的民家の町並み保存も進められつつあり、朝鮮王朝以来の600年を超える歴史を有する首都ソウルの歴史的景観を保全しながらの発展が期待される。

(山形大学農学部)